

『明日の水は大丈夫？』

バケツ1杯で考える「水」の授業』

橋本淳司／著 技術評論社／刊 1,554円

社会

「バケツ1杯の水」を知ると、
世界の諸問題が見えてくる

人間ひとりに1日あたり最小限必要な水の量は10リットル＝バケツ1杯。これを「命の基本単位」として世界を切り取ると、さまざまな歪みが浮き彫りになると著者は言う。

本書ではバケツ1杯をものさしに、地球規模の水資源危機や、経済格差による水分配の不均衡を検証する。わたしたちの暮らしがいかにな「眼には見えない水」に依存し、しかもそれを「湯水のように」無意識に使ってきたかを次々に示され驚く。水から多くを考えさせられる。

